

科目名	人材マネジメント論特講	担当者	カトウ 加藤 コウジ 孝治	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は企業活動の根幹である組織・従業員のマネジメントの知識を修得することにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>① 企業を構成する3つの資源（ヒト・モノ・カネ）のうち、人的資源として捉えた時の人材の性格を把握し、人材をマネジメントする方法につき、自ら学ぶ。</p> <p>② 人材マネジメントの知識を持つことで、自らの属している組織の中での従業員の行動パターンを理解し、次の行動・活動を自ら考えることができる。</p> <p>③ 組織の中で繰り広げられる経営活動・人事マネジメントについて、より深い見地から理解することができるようになることで、行動に責任を持って自ら道をひらいていくようになる。</p> <p>④ 人材マネジメント論・経営組織論を修得することは、経営管理に繋がる重要な企業経営の知識を身に付けることとなり、経営に関してより深い理解に到達することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 企業経営に必要な組織運営、人材マネジメントに関する専門性を理解する</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>① 学修者が経営組織・人材マネジメントに関する知識を列挙し、それぞれの知識を関係づけて理解する（知識）</p> <p>② 具体的な企業の事例に対して、学んだ知識を活かして深く考えることで理解は一層明確になり、自ら使うことができる技能に高める（技能）</p> <p>③ 理論と具体的な組織の中での活動の間には異なる点があり、その考え方を応用的に適用することで、具体的なビジネスシーンに応じて使いこなせるように配慮ある行動となる（態度）</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略（LS）・アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>課題教材を精読し十分に理解したうえで、具体的な考察を行う。具体的な事例に当てはめるために、課題教材学修の2倍以上の時間を費やし考えることで活用できる知識となる。</p> <p>具体的な企業事例については、各自が教材以外の関連書籍を探し、新聞・ネットメディアなどの記事のほか、企業の公表資料などにもアクセスしていく必要がある。論文、民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源を活用することが望まれる。</p> <p>【準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> まず、基本教材を熟読したうえで、副教材も参考にしつつ、レポートドラフトを作成する。 【15時間/レポート1本】 学修支援者による初期の気づきを与えるコメント・指導に基づき、初稿を作成する。 【15時間/レポート1本】 より深い理解に到達するためのインタラクティブな学習の場（ディスカッション）となる「複数回の添削指導」を通じて、最終的にレポートを作成する。最終レポートに到達するまでには、与えられた課題以外に指示された追加資料を確認し、更に自主的に参考資料を探索するという自主的なインプットを行うことで、より深い理解に到達する。 【15時間/レポート1本】 		
スケジュール	<p>① 提出期限までに何度かレポートを使って、考え方を確認・交換する必要があるため、最低でも前後期とも課題提出期限1.5か月前までには初回提出をすること。</p> <p>② 受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、早めの時期（開始後1か月）に課題提出することが難しいと考えた場合には、レポート作成に必要な質問をメールあるいは添削システムを使って連絡すること。効率的に学習に取り組むために、レポート作成前に、課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。</p> <p>③ 最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	① 教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか ② 自分の独自の考えを、相手に伝えるように解答できているか ③ 教材以外の資料を活用して解答しているか（加点点目）
	観察記録	20%	① 最終提出までに複数回のレポート交換ができているか ② 途中稿提出期限（最終提出1か月前）が守れているか（減点点目）
履修者への要望	<p>グローバル経営（MBA）部門のコア5科目の一つであり、他の科目（グローバル経営戦略論特講、アカウントング論特講、マーケティング論特講、現代ファイナンス論特講）と合わせて履修することが望ましい。履修登録後、速やかに学修計画のすり合わせを行うために、担当教員（加藤）に連絡すること（kato.koji15@nihon-u.ac.jp）</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 佐藤剛 教材名： 『グロービスMBA組織と人材マネジメント』（ダイヤモンド社，2007年） (1) ISBN:978-4-47-800321-3 2,800円+税
	著者名： スティーブン・P・ロビンス 教材名： 『[新版] 組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社，2009年） (2) ISBN:978-4-47-800459-3 2,800円+税
	前期教材の1冊目（グロービス）は経営組織と人材マネジメントの関係を理解してもらうために選んだ入門書である。全体を通読し，人材マネジメントに係る論点がどこにあるかを把握してほしい。2冊目の教材（ロビンス）は組織行動論を考えるための良書であり，前期は組織の中で個人がどのような関係にあるのかを考えてほしい。
参考図書	金井壽宏，高橋潔『組織行動の考え方』（東洋経済新報社，2004年） ISBN:978-4-49-252146-5 2,400円+税 スマントラ・ゴシャル，クリストファー・A・パートレット『(新装版)個を活かす企業 自己変革を続ける組織の条件』（ダイヤモンド社，2007年）ISBN: 978-4-478-00194-3 2,592円+税
履修上のポイント	経営組織の中で人材がどのようにマネジメントされているのか，現代の組織運営上の問題点はどこにあるのかを把握してほしい。その際に，自分が経験した具体的な事例に置き換えながら学ぶことでより深い理解に繋がるものである
レポート課題 1	教材1（グロービス）を使い，従業員にとって納得性を与えるために，人事システムにおいて考えられている仕組みについて，その項目を挙げ，内容を説明しなさい。 留意点： 人事システムを，制度・仕組みを知識として理解するだけでなく，その背景，目的まで踏まえて説明すること。
レポート課題 2	個人が組織の中で活かされるために必要な動機づけに関する理論をあげ，その内容を説明するとともに，具体的なプログラムとして応用されている事例を説明しなさい。 留意点： 教材2（ロビンス）の第Ⅱ部で示されている内容を踏まえ，組織の中で個人が活かされていくために組織は何ができるのか，考えてほしい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： スティーブン・P・ロビンス新版『組織行動のマネジメント』 教材名： （ダイヤモンド社，2009年）ISBN:978-4-47-800459-3 2,800円+税
	組織を運営していくために一人一人の行動と，部門の行動をどのようにコントロールするべきか考える。
参考図書	ピーター・M・センゲ『最強組織の法則 新時代のチームワークとは何か』（徳間書店，1995年）ISBN:978-4-19-860309-0 1,900円+税 E・H・シャイン『企業文化 ダイバーシティと文化の仕組み』（白桃書房，2016年） ISBN:978-4-561-23675-9 2,800円+税
履修上のポイント	組織運営においてルールは大事であるが，明文化されている仕組みだけでなく，目に見えない文化にこそ本質が宿っている場合があることも理解する。
レポート課題 1	組織の中で，パワー，政治がどのように利用され権力を掌握することにつながるのか，組織内でコンフリクトが発生した時にどのように対処することができるのか，説明しなさい。 留意点： ロビンスの第Ⅲ部に示されている内容からまとめる。その際に，自分がこれまで組織の中で経験したことのある事例も活用して説明することが望ましい。
レポート課題 2	組織はヒトの集団であり，構成メンバーの意識が同じ方向に向かうほど強い組織となる。組織文化が企業競争力の強化に効果を上げていることについて説明しなさい。 留意点： 企業は組織を従業員にとって働きやすく，かつ自己実現を達成できる場となるように様々な工夫をしている。本課題に関しては，教材（ロビンス）の第Ⅳ部からまとめるだけでなく，可能な限り，具体的な企業の状況を把握し，複数の企業を比較しながら説明することが望ましい。

基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（組織の目的、組織文化）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（組織構造）を行う
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（人事システム、多様性のマネジメント）
第 4 回	教材 1 に基づく学修④（組織と人材を動かす仕組み）
第 5 回	教材 1 に基づく学修⑤（組織と人材マネジメントの実践例）
第 6 回	教材 2 に基づく学修①（組織行動学とは何か）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材 2 に基づく学修②（個人の行動の基礎、パーソナリティと感情）
第 8 回	教材 2 に基づく学修③（動機づけの基本的なコンセプト）
第 9 回	教材 2 に基づく学修④（動機づけ：コンセプトから応用へ）
第 10 回	教材 2 に基づく学修⑤（個人の意思決定）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（集団行動の基礎）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（チームを理解する）を行う
第 3 回	教材に基づく学修③（コミュニケーション）
第 4 回	教材に基づく学修④（リーダーシップと信頼の構築）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（パワーと政治）
第 6 回	教材に基づく学修⑥（コンフリクトと交渉）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材に基づく学修⑦（組織構造の基礎）
第 8 回	教材に基づく学修⑧（組織文化）
第 9 回	教材に基づく学修⑨（人材管理の考え方と方法）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（組織変革と組織開発）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する